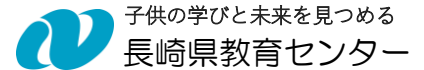


学校が動く その時



新学習指導要領には、各教科等の目標が資質・能力によって構造化して示されました。これは、これまでより一層、教科間の横のつながりを意識し、学校のあらゆる教育活動を結び付けることを促すものです。「教科等をつなぐ」ことは、全ての職員をつなぐことでもあります。学校、子供、地域のそれぞれについて、目指す姿を全職員が共有し、思いが重なった時、学校は大きく動き始めます。

では、どのように教科等をつなぎ、職員をつなぐのか。

今回はこの「教科等をつなぐ」に焦点を当て、カリキュラム・マネジメントを考えます。

なぜ「教科等をつなぐ」のか

教育課程の編成において、教科等横断的な視点で内容を組み立てることは、子供たちに「身に付けさせたい資質・能力」を効果的に育成することにつながります。

教科等横断的な視点を取り入れることで期待される効果

- ・教育課程全体の中で育てたい力を焦点化、重点化して指導したり、職員間で連携・協働して指導したりする等、計画的に手厚く指導することができる。
- ・関連する内容について統合、整理することで、新たな時間を生み出したり、子供たちの問題解決に十分な時間をかけたりすることができる。
- ・情報交換等の機会が増え、全職員が参画意識をもって教育課程を見直し、より質の高い実践に取り組むことができる。つまり、カリキュラム・マネジメントの充実が図られる。

教育活動の質の向上

「身に付けさせたい資質・能力」の育成

- ・各教科等で知識や技能を関連付けたり繰り返し活用したりすることで、汎用的な知識や熟達した技能を確実に身に付けさせることにつながる。
- ・多様な場面で他者と協働しながら問題を発見、解決することができ、様々な状況にも対応できる思考力、判断力を育み、より豊かな表現力を育成することにつながる。
- ・学びが他の教科等とつながっていることを実感することで、学ぶ意義を見だし、学校で学んだことを社会や実生活の中で生かそうとする意欲を高めることにつながる。

教科等横断的な視点で教育課程の編成、実施を進めるにあたっては、何よりも職員の理解を深めると共に実践意欲を高めることが大切です。そのためにも、「教科等をつなぐ」ことの効果について全職員が考える機会をもち、そのよさを共有しておくことが重要です。

どのように「教科等をつなぐ」のか 教科等横断的な視点で教育課程を編成、実施するには、どのように教科等をつなぐとよいのでしょうか。つなぐ視点には、「教科等の内容でつなぐ」視点と「育成したい資質・能力でつなぐ」視点の二つがあります。

教科等の内容でつなぐ

○内容や取り扱う題材によって関連するものでつなぐ

【例：「情報社会」に関する内容】

国語科：新聞記事を読み比べる学習

社会科：マスメディアに関する学習

道徳科：情報モラルに関する学習

育成したい資質・能力でつなぐ

○言語能力や情報活用能力、問題発見・解決能力等、教科等を越えた全ての学習の基盤として育まれ活用される資質・能力でつなぐ

【例：言語能力「根拠を明確にしながら自分の考えを相手に分かりやすく伝える力」】

算数科：図、グラフ、表を活用しながら自分の考えを説明する力

図画工作科：形や色などの造形的な特徴を捉え、作品のよさを伝え合う力

○環境教育、キャリア教育、主権者教育、ふるさと教育等、現代的な諸課題に対応するために必要な資質・能力でつなぐ

【例：環境教育「環境問題について自分の考えをもち、他者と協力して環境保全に主体的に関わる力」】

理科：自然環境の保全と科学技術の在り方について課題を見付け、他者と協力して解決しようとする力

技術・家庭科：環境に配慮した消費生活の視点から自分や家族の生活を見直し、改善策を考え実践する力

これから求められる「教科等をつなぐ」視点とは これまで「教科等をつなぐ」場合は、「内容でつなぐ」視点から考えられてきました。これからの学びにおいては、内容面のつながりを意識することに併せて、教科等を越えて「育成したい資質・能力」を明確にして共有することが重要です。

教科等をつなぐことで、教育の相乗効果をねらいましょう

「教育活動の質の向上」を目指して、教科等を効果的につなぎましょう。

今回のポイント！

教科等をつなぐための基盤を整えましょう

教科等をつなぐ意義の確認

校内研修等で教科等横断的な教育課程を取り上げ、教育活動の質の向上という視点からその編成、実施がもたらす効果について議論し、実践意欲を高めましょう。

つなぐ視点の共有

「教科等の内容」と「育成したい資質・能力」の二つのつなぐ視点で教育課程を見直し、常に改善を図りながら、より質の高い実践につなげていきましょう。

次号では、教科等をつなぐ具体的な手順について紹介します。